

「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和4年10月～12月期

《調査目的》

「伴走型小規模事業者支援推進事業」の一環として管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

《調査概要》

対象期間：令和4年10月～12月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

今期の管内産業全体景況は前期(令和4年7～9月)の景況と比べると大幅に改善している。コロナ前には戻ってはいないものの令和2年、3年度と比較して回復傾向にあると思われる。しかし、物価高騰による経営コスト上昇の影響が大きい小売業、サービス業が採算の悪化が続き、苦境が続く。

【製造業】

引き合い・受注が回復し売上が上昇したものの、仕入価格も上昇し採算が改善されない状況である。消費が落ち込む1月、2月は採算がマイナスに振れるのではないのかと思われ、取引先との価格転嫁交渉次第では厳しい状況が続くと考えられる。

【建設業】

災害復旧関係工事が2～3年先までであると言われており、売上は安定。加えて12月には早くから大雪の除雪作業もあるが従業員、下請業者等の人員不足で工期の遅れや従業員負担が多くなると思われる。燃料高騰によるコスト上昇の影響で資金繰りは安定していると言え、建設資材の価格高騰による発注者との引き合いの低下が懸念される。

【小売業】

新型コロナによる行動制限の緩和がされているが、度重なる物価高騰で消費者の購買意欲が薄れており、併せて大型店やネット購入の需要が高まりを見せている。元々庄原市・三次市の大型店への購買力の流出が激しい地域ではあるが、マイナンバーカードや「な・み・か」によるポイント利用や大雪での備蓄等の恩恵により利益をもたらしている。しかし、現在も続く物価高騰により景況の低迷に拍車がかかることが懸念される。

【サービス業】

新型コロナによる行動制限の緩和でレジャー産業や飲食店等の業種は売上を伸ばしているが、コスト上昇分を価格転嫁出来ているところは少数だと思われる。理美容においても価格改定が進んでおらず、採算は悪化傾向にある。自動車修理業においては人流が活発になったことや大雪による自動車の修理が増え、売上が伸びた。

産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ
(前期) (今期)

	R4.7～9	R4.10～12	前期との比較
備北	-40.0	13.4	↗
広島県	-19.5	-26.9	↘

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス(+)なら………強気(楽観)、上昇機運
DIがマイナス(-)なら………弱気(悲観)、低下機運

広島県の主要景況項目の推移(前期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R4.7～9	R4.10～12	前期との比較
売上額		-4.4	4.4	↗
原材料仕入単価		85.7	79.5	↘
採算		-20.4	-20.0	→
資金繰り		-15.5	-13.4	↗

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R4.7～9	R4.10～12	前期との比較
売上額		-25.4	-25.7	→
商品仕入単価		74.7	64.3	↘
採算		-36.2	-42.1	↘
資金繰り		-27.1	-24.7	↗

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R4.7～9	R4.10～12	前期との比較
売上額(完成工事額)		-12.5	4.5	↗
材料仕入単価		72.3	72.7	→
採算		-31.9	-26.7	↗
資金繰り		-2.1	0.0	↗

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R4.7～9	R4.10～12	前期との比較
売上額		-10.4	-25.7	↘
材料等仕入単価		62.2	67.7	↗
採算		-36.3	-44.0	↘
資金繰り		-21.9	-27.0	↘